



小林 登美子 議員



### 古河市のSDGsの推進状況について

**問** これまでの推進内容と、県内の市町村において、SDGs トップランナーとしての今後の取り組みや展望について伺う。また、SDGsは達成するものであるが故に、公表の際は分かりやすく数値化することを提案する。

**答（企画政策部長）** 策定中の総合計画等と関連付けを行う。引き続き、登録パートナー(\*)と  
\*登録パートナー…古河市SDGsパートナー登録制度に登録を行った団体・企業

協力しながら、新しい価値を創り出す取り組みを通じて、目標達成に向け推進していきたい。公表の際には、分かりやすさと目に見える形を心掛けたい。

### 子育て支援について

**問** 国が打ち出した異次元の子育て支援を、古河市はどう認識し、将来の古河市に、どのような効果と支援内容を追求するのかについて伺う。



**答（福祉部長）** 国の基本理念に

基づく政策に取り組むことは、重要であると認識している。現在行っているマル古や妊産婦助成のほか、今後も市独自の支援を検討する。子育て支援を行うことで、子どもを産み育てやすい環境を整えたい。

### 高等教育機関の誘致について

**問** 必要性の認識と誘致の課題、また効果や狙いについて伺う。

**答（市長）** 古河市の現状、市民や企業のニーズを把握し、必要性和効果を導き出しながら、誘致の可能性を探りたい。

**答（企画政策部長）** 年度末に、共同調査研究事業による最終報告書を取りまとめ、公表する予定である。



鈴木 務 議員



### 通学路の現状について

**問** 通学路を決めるに当たっては道路の幅員が児童生徒の通行を確保できる状態であり、路面や側溝などの占有状態が良好であること。これらの観点から①通学路の危険箇所対応について②通学路整備要望書の件数と対処について（通学路が絡んでいる物件）状況を伺う。

**答（市長）** ①安全面の担保を優先に、問題点や危険箇所の改善

に随時取り組んでいきたい。

**答（都市建設部長）** ②受理済みは約160件、うち通学路を含むものが41件、本年度は6路線の整備を予定している。

**答（教育部長）** ①通学路安全推進会議で、現状把握と対応策を協議している。必要に応じ現地へ赴き、通学ルートの見直しも視野に入れ、検討を進めている。



通学路の危険箇所

い部活動を構築すべきと部活動ガイドラインを作成した。①働き方改革を踏まえた地域部活動改革とは②生徒や保護者に十分な理解が得られているのか③部活動から地域部活動さらに地域クラブ活動に移行した場合、保護者の負担増は避けられないのではないか、以上について伺う。

**答（教育部長）** ①本年度は各中学校につき1つ以上の部活動で、部活動指導員が休日指導を行うという目標を掲げ、現在指導員の確保を進めている。②県や市が作成したチラシ等を保護者や中学校へ配布した。③指導者の報酬など新たな負担が想定されるが、負担軽減のための対応を、国や県の動向を見極めながら検討していく。

### 部活動改革の方策について

**問** 文部科学省は生徒の望まし